

授業科目	総合臨床実習Ⅱ				
担当者	藪中良彦・PT専任教員（すべて実務経験者）			（オムニバス）	
実務経験者の概要	藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で20年間、小児訪問リハビリテーションで5年間の実務経験）				
学科名	理学療法学専攻	学 年	4年	総単位数	18単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修

■ 内 容

国内医療施設で9週間の臨床実習を2回行う。

■ 到達目標

臨床実習指導者の指導の下で、理学療法評価からプログラム実施のまでの一連の理学療法プロセスを経験する。具体的には、ICF(又はICIDH)の枠組みの中で、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定、具体的治療プログラム立案、適切なプログラム実施、治療効果判定に基づく治療プログラムの変更が行えるようになる。

■ 授業計画

実習施設 近畿圏を中心とした全国の一般病院、リハビリテーション病院

実習期間 9週間×2回

実習形態 臨床実習指導者の監督の下に、対象者様に合わせた評価項目を選択・実施し、統合と解釈を行い、問題点を抽出し、目標設定を設定し、治療プログラム立案し、治療プログラム実施する。専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員訪問時には、学生自身の問題解決のためのディスカッション時間を設ける。

実習の

進め方 解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法評価学、理学療法治療学、日常生活活動学、地域理学療法学等の知識を駆使して、評価を行い、ICF(又はICIDH)の枠組みの中で統合と解釈を行い、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、具体的治療プログラムを立案し実施する。実習の進め方は、実習施設の実情に合わせ、専任教員と臨床実習指導者で計画する。

■ 評価方法

出席（欠席-1点、遅刻・早退-0.5点）、実習内容及び態度（70%）、総合臨床実習症例レジメとICF/ICIDH枠組み図の内容及び学内症例発表会の発表（30%）等を基に、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎日の経験と疑問に対する自己学習についてまとめるデイリーノートが毎日の自宅学習の課題である。また、実習期間で経験した症例についてレジメまたはレポートにまとめることも自宅学習の課題である。

■ 教科書

書 名：理学療法臨床実習サポートブック

著者名：岡田慎一郎 他

出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：3年次までに使用した教科書

■ 留意事項

総合臨床実習実施要綱には、総合臨床実習Ⅲの目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

■ 講義受講にあたって

3年間学習した内容を総動員すると共に「総合臨床実習Ⅰ」で学んだ評価と治療の技術を基に、「総合臨床実習Ⅱ」において、臨床実習指導者および専任教員の援助の下、対象者の臨床像の変化に合わせて的確に治療プログラムを変更していくことが可能となる。